

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.130

2010/09/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

際限なく続く保全作業



北部湿原西側砂防作業 (10/09/11)



堆砂で満杯になった堰 (10/09/17)

「山門水源の森」の保全作業の多種多様なことは、既号で報告の通りです。何か 1 種の保全作業で事足りるというものではありません。今森で一番必要な保全作業が何なのかを判断して、即座に対応する必要があります。今最も力を入れているのは、砂防作業です。今夏は降雨が少なく、山地から湿原に供給される土砂量が例年より少なかったのは、ある意味幸いでした。が 9 月に入り台風を考慮して、砂防作業を開始した直後に台風 9 号に伴う降雨で、山地から流出した土砂はかなりの量に達しました。直前の砂防作業が功を奏して、湿原への直接的な被害はありませんでした。が上と左の画像を見比べて下さい。上は、来るべき降雨時に堆砂を待ち受ける砂防が終了した段階です。それが台風に伴った降雨後には、左の画像のように満砂

状態になりました。この作業が出来ていなければ、これらの土砂は湿原に供給されたことになります。危機一髪の回避ということになりました。これはほんの一例ですが、森の生態系の保全全体を考えると、常にパトロールを行い、森の状態を把握するとともに、次に何が起こるかを予想して（もちろん予想出来ないことも多いのだが）、事前に対策を講じておく必要があることを物語っています。

ミヤコアザミ華麗に咲く 湿原復元によって昨年再発見されたミヤコアザミが 7 株開花しました。また昨秋採種して播種して発芽した実生も猛暑にも関わらず順調（遮光ネットを設置）に生育しています。今年も既に花が終わった株では、充実期に入っており相当数の種子採取が可能です。これで絶滅は避けられ、来期は一気に株数を増やすことができるだろうと期待されます。昨秋シカの食害に遭ったため、発芽段階から獣害防止ネットを設置して推移を観察していますが、残念なことに最も大きかった株が、ノウサギ（？）らしきものに喰われました。これまた自然界のならわしということなのでしょうが、たかが 1 種の植物を保全することもなかなか大変なことです。



開花したミヤコアザミ (10/09/06)

ナラ枯れの南下

今年も日本各地でナラ枯れが問題となっています。滋賀県下ではおおざっぱに南小松と近



北部湿原のナラ枯れ(10/09/15)



滋賀県・比良山麓のナラ枯れ(10/08/11)



長命寺(滋賀)(10/08/04)



京都・左京区(10/07/28)



マキノ町(滋賀)(2000/08/15)



中央湿原(2000/08/15)

薪炭林として利用していた時代に、「山が枯れる」という話も現場も見たことがありません。定期的皆伐が森林の更新をしていたからです。

保全活動の現地視察・研修増加 10年間の保全作業の成果が少しずつ目に見えるようになったためと思われませんが、今年に入って各地から保全活動の現場視察の団体が増加しています。またこの猛暑の中でも多くの一般訪問者を迎えました。沢コースの解禁は、猛暑には効果的でした。それだけに今後の保全活動の継続が課題です。来訪者の増加は、観察コースの「荒れ」に通じます。その補修に必要な砂礫を「やまかど・森の楽舎」から運び上げるという作業も日々行っています。これには矛盾をはらんでいます。保全活動と並行して実施せねばなりません。それには人手が必要です。9月の「保全活動の日」は、多くの会員が馳せ参じて中央湿原の最終的な整備と砂防作業を行いました。10月の保全活動日にも多くの会員の参加を期待しています。



枯死木標識(10/08/30)



徳島大の現地研修(10/09/07)



9月の保全作業(10/09/18)